

II 研究内容

1 研究構想図

学校教育目標「それぞれが飛べ・みんなで翔べ・ゆめいっぱい戸部」

それぞれが飛べ : 子ども一人一人が個性を發揮し、自分を豊かに表現し、追究する姿
 みんなで翔べ : 人や自然、社会とかかわり、より豊かな関係を作り出す姿
 ゆめいっぱい戸部 : 「戸部」のまち・学校に夢や希望をもち、自己実現に向かう姿

「自ら学びを創りだす子ども」

思いや願いをもって身近な自然や社会、人などの学びの対象（学習材）とかかわり、友達と協働的に学び合い、自ら課題を設定し、追究し、振り返りながら学びを連続・発展させていく探究的な学習活動を通して、『学びを創りだす力』（資質・能力及び態度）を身に付けたり、学習材に対する理解を深め、共感・感動したりして『学びうる内容』（内容）にせまり、新たなものの見方や考え方を獲得・創出しながら自分の生き方や考え方を見つめ直す子ども

『学びを創りだす力』（育てたい資質・能力及び態度）

それぞれが飛べ	○体験的に、方法を考えて情報収集する ○整理・分析し、判断する ○自分の考えをまとめたり表現したりする
みんなで翔べ	○協働的に活動する ○話し合い、理解し合う ○豊かに感受する
ゆめいっぱい戸部	○興味・関心をもち課題を把握する ○解決へ見通しをもち構想する ○学びを振り返り自分を見つめなおす

研究内容		総合的な学習の時間	生活科
単元構想		子どもの思いや願いを大切に学習材を選定し、単元の「学びうる内容」・「学びを創りだす力」を分析し、「学びどころ」を想定して、単元の流れを考える	
		かかわれる人、想定される課題、活動の可能性等についての教材研究	子どもの生活に基づく単元の立ち上げ 戸部の地域性を考慮した教材研究
小単元構想		探究の過程の入口と出口とを意識し、小単元で育てたい『学びを創りだす力』を「課題をもつ・追究する・振り返る」という過程に沿って整理する。	
		探究の過程の入口と出口の明確化 小単元の山場としての『学びどころ』の明確化	多様な表現活動 繰り返し材とかかわる時間と場の保障
授業作り		本時の学びどころとして、座席表の分析から期待する変容とそのためのかかけを整理する	
		必要感のある本時課題 思考の流れが見える板書 思考ツール・活動形態の工夫	協働的に活動・表現できる学習の場の工夫 個と材との豊かなかかわり

『学びうる内容』

<p><総合的な学習の時間> 福祉、健康、食、環境、安全、 伝統、文化、生命、学校、地域 キャリア、ものづくり （教科等の内容）</p>	<p><生活科> (1)学校、(2)家庭、(3)地域、 (4)公共物・公共施設、(5)季節の変化、 (6)自然や物を使った遊び、 (7)飼育・栽培、(8)交流、(9)自分の成長</p>
--	--

※個別支援級は、上記の内容を中心に、クラスの実態に応じて選択する